

東大寺大仏殿から徒歩6〜7分の所に実家がある私にとっては、奈良公園はとても懐かしい場所である。

最近、奈良市で獣医をしている友人が、奈良公園では、春日大社の神鹿でもあるシカによる食害を防ぐためにイラクサ自身が「毒を持つトゲ」を多く持つように進化した、との研究結果が最近報告されたと教えてくれた。

この研究内容に進む前にイラクサについて少し説明したい。イラクサは関東以南の本州、四国、九州に自生する多年生草本で、奈

良公園では各所に自生していて、その葉や葉柄、茎には刺毛（トゲ）が生え、その刺毛の基部にはアセチルコリン、ヒスタミン、蟻酸等を含有了した液体の入

したのは奈良女子大学の佐藤宏明准教授のグループである。この研究は科研費のもとに2010〜2014年にかけて奈良公園を中心に実施され

## パワハラによる植物の進化

北村 豊

った囊が存在し、その刺毛に触れて液体が皮膚につくと激痛が走り、私も何度も子供の頃に経験している。奈良公園のイラクサについての研究を実施

た。奈良公園では1200年にわたり多数のシカが保護されてきたことを念頭に実施されたこの研究が私の興味を強く引いたのは、イラ

クサを食べる鹿と、イラクサを食草とするアカタテハの三者の局所的適応進化の実証的研究であったからである。私の大好きな蝶については紙幅を割く余裕がないので今回は割愛する。

研究結果では、実験に使用した奈良公園のイラクサの刺毛数は、奈良県高取城址のおよそ80倍もあったという。一方シカに食べられた葉の割合は、奈良公園のイラクサで有意に低く、およそ四分の一であった。すなわち奈良公園のイラクサは、シカの高

い採食圧下に1200年間もさらされてきた結果、高い刺毛密度を進化させ、周辺個体群から遺伝的にも防御形質を獲得・分化し、局所適応したと結論づけている。

1200年ものパワハラ？を活力に進化したイラクサを褒めてあげたいと思う。

ところで、政府与党のパワハラ国会は、いつまで続くのだろうか？そろそろ日本も成長して大人の民主主義国家に進化してほしいものである。（信州口腔外科インプラントセンター所長）